

2012 年度「船舶基準セミナー」の開催結果

2012/12/18

(一財) 日本船舶技術研究協会

1. 日時及び場所

(1) 第 1 回目 (東京会場)

日 時：2012 年 12 月 10 日 (月) 13:30~17:00

場 所：日本財団 2F 会議室

参加者：造船、海運、船用工業、研究機関等の海事関係者を中心に約 160 名

(2) 第 2 回目 (広島会場)

日 時：2012 年 12 月 12 日 (木) 13:30~17:00

場 所：ホテルグランヴィア広島

参加者：造船、海運、船用工業等の海事関係者を中心に約 100 名

2. 各講演の概要

◆ IMO における環境規制の動向

講演：国土交通省 海事局 安全基準課 国際基準調整官 斎藤 英明 様

- IMO の概要、国際条約改正の手続き等の基礎的な説明に加え、我が国が世界随一の海事産業の技術力を結集し、先手の交渉戦略で臨むことの重要性が強調されました。
- その他具体的事項として、国際海運における地球温暖化対策に係る IMO 及び UNFCCC (国連気候変動枠組条約) における審議状況、バラスト水管理条約並びにシップリサイクル条約の現状について概要説明がありました。

◆ (一財) 日本船舶技術研究協会の調査研究事業と IMO 対応

講演：基準・規格グループ 主任研究員兼基準ユニット長 北林 邦彦

- 船技協の産学官によるプラットフォームとしての役割について説明するとともに、IMO における国際基準策定のプロセスについて、本年 11 月の MSC91 で採択された船内騒音コードの義務化を事例に取り上げ、詳細な説明がありました。

◆ 船体付着生物管理に関する IMO 等の審議動向及び我が国の対応

講演：基準・規格グループ 主任研究員 兼 基準ユニット長 北林 邦彦

- 昨年の IMO MEPC62 で非強制要件として採択された船体付着生物管理ガイドラインで海運関係事業者に要求される主な要件について説明がありました。

◆ 船舶からの大気汚染防止

講演：(独) 海上技術安全研究所 研究統括主幹 兼 海洋環境評価系長 千田 哲也 様

- 我が国への ECA (Emission Control Area) 導入の検討のために行った大気汚染物質の排出シミュレーション等調査について概要説明がありました。また、今後の燃料中の硫黄分規制強化に伴い導入が予想される難燃性の軽油成分 (LCO) により発生する内燃機関における着火トラブル防止対策に関する調査結果について概要説明がありました。

◆ 船舶からの GHG (温室効果ガス) 削減

講演：基準・規格グループ 主任研究員 中村 幹

- 昨年の IMO MEPC62 で導入された国際海運における CO₂ 排出規制の内容 (EEDI、EEOI 等) について詳細な説明がありました。また、最低出力ガイドラインの策定、2002 年に発行された ISO 15016 (速力試運転方案) の改正といった、現在審議が行われている事項で我が国関係業界に大きな影響を及ぼすもことの説明及びこれら案件への我が国の取組方針について説明がありました。



開会挨拶（松田会長：東京）



開会挨拶（愛川理事長：広島）



来賓挨拶（中国運輸局 三谷次長）



閉会挨拶（田中常務理事）



IMO における環境規制の動向
（国土交通省 斎藤 英明 氏）



船技協の調査研究事業と IMO 対応 等
（北林 ユニット長）



船舶からの大気汚染防止
（海上技術安全研究所 千田 哲也 氏）



船舶からのGHG（温室効果ガス）削減
（中村 主任研究員）



会場の様子（東京）



会場の様子（広島）

【アンケートで寄せられた回答の概要】

- IMO における日本の立場や交渉戦略、ルール策定過程の説明、また、GHG 排出削減や大気汚染防止の技術的な内容についての詳しい説明は好評であった。また、IMO での審議への日本の前向きな取組みを評価する声が多く寄せられました。
- 今後の希望テーマとしては、船体付着生物管理のように今後新たな規制に発展する可能性のあるものを先取りして取り上げてほしいとの意見が寄せられるとともに、規制への対応として具体的に事業者が取り組むべき事項を掘り下げて解説してほしいとの要望もありました。その他、個別希望テーマとしては LNG 燃料船、復原性、航海機器、船底塗料、ISO 対応等非常に幅広い要望が寄せられました。
- 広島会場では、本セミナーを広島で開催したことに対する謝意、今後の継続開催要望が多く寄せられました。

以 上